

《その他》

グループホームで暮らす認知症高齢者のアクティビティに関する研究

— テキストマイニング手法による紙芝居の感想の分析 —

福岡 裕美子¹⁾, 畠山 禮子¹⁾

要旨：本研究は、グループホームで暮らす認知症高齢者に紙芝居を試み、認知症高齢者の感想の分析から、その効果について検討することを目的とする。研究方法は、認知症高齢者グループホームで暮らしている認知症高齢者17名に対して、1週間に1回紙芝居を実施した。毎回紙芝居終了後に感想を述べ合ってもらった。感想の内容をテキストマイニング手法にて分析した結果、【紙芝居に対するポジティブな側面】【紙芝居に対するネガティブな側面】【長期記憶を呼び起こす側面】【短期記憶の低下した側面】の4つが見出された。紙芝居の効果として、長期記憶を呼び起こすことができる可能性が示唆された。

キーワード：認知症高齢者、紙芝居、テキストマイニング手法

I. はじめに

アクティビティケアとは体操、機能訓練、ゲーム、レクリエーションと呼ばれる様々な活動を通して生活全体を活性化するために行われる諸活動の全体である(奥野ほか, 2008)。認知症高齢者へのアクティビティケアとして代表的なものは、集団体操、手芸、ゲーム、回想法や音楽や美術を活用した芸術療法などがある。認知症高齢者へのアクティビティケアの実践は、認知機能の改善を目指すというよりも、日々の生活に潤いや刺激を与えるという目的が大きい。

グループホームで暮らす認知症高齢者のアクティビティケアに関する研究は少なく、先行研究を概観すると、回想法では、ストレス緩和効果(兎澤ほか, 2010)、テレビ回想法による気分の改善(安藤ほか, 2005)などの効果が報告されている。園芸療法では、週1回の園芸活動により、他の参加者との会話や配慮といった行動の変化(増谷, 2010)が報告されている。また、視聴覚を介したはたらきかけでは、家庭用ビデオを用いて10-15分位の家族の映像や思い出の写真、好きなスターの映像などを大画面で見てもらったとこ

ろ、認知症高齢患者の精神行動異常症状(BPSD)を抑えることができた(Hatakeyama. et al, 2010)という報告がある。認知症高齢者の帰宅願望が強くなる夕暮れ時に紙芝居を取り入れた研究(梅野ほか, 2005)では不穏状態が落ち着いたという報告がされている。そこでテレビやホームビデオ映像などの効果を踏まえ、紙芝居を用いてみることを考えた。

本研究は、グループホームで暮らす認知症高齢者に紙芝居を試み、認知症高齢者の感想の分析から、その効果について検討することを目的とする。

II. 研究方法

1. 対象者

認知症高齢者グループホームで暮らしている認知症高齢者17名。

2. 介入方法

介入期間は、平成23年1月28日～3月31日であった。介入は1週間に1回グループホームへ行き対象者に対して紙芝居を実施した。毎回紙芝居終了後に感想を述

1) 弘前学院大学看護学部看護学科

連絡先：福岡裕美子 〒036-8231 弘前市稔町20-7

TEL：0172-31-7175, FAX：0172-31-7101 (看護学部事務室)

E-mail：fukuoka@hirogaku-u.ac.jp

べ合ってもらった。感想の内容は1回の介入が終了する度にフィールドノートへ記入した。

3. 分析方法

紙芝居終了後に対象者全員に紙芝居の感想を聞いた。対象者が自由に発言した内容から逐語録を作成し、意味内容を変えないように1文節に区切り分析をした。分析はWord Miner ver1.1を使用し、テキストマイニング手法（藤井ほか, 2005）で分析した。

1文節に区切ったデータを分かち書きし構成要素を抽出するため、句読点、助詞を除いた。さらに解析対象の構成要素を整理し、分析しやすくするために、同種の語を一つの語に置換した。たとえば、いいな、いがあったなどは「いい」に、楽しかった, 楽しくなどは「楽しい」に置換した。得られた構成要素のうち出現頻度が2以上のものを対象に対応分析を行った。次に対応分析で得られた成分スコアをもとにクラスター分析を行い、構成要素の類型化を試みた。そして、各クラスターの特徴から紙芝居の感想の特徴を見出した。

4. 倫理的配慮

対象者および対象者の家族、施設責任者に、研究の目的、研究内容を説明し、同意を得た。特に対象者は認知機能障害があるので、説明時には精神的に負担にならないように、わかりやすい言葉で短時間の説明をこころがけた。家族へは電話にて説明を実施した。研究への協力は任意であること、いつでも撤回できること、データは研究目的以外に使用しないこと、匿名性の保持や研究後にデータは速やかに破棄すること等について説明を行い了解を得た。なお、本研究は研究者の前任校の大学の倫理委員会の承認を得て実施した。

Ⅲ. 結 果

1. 対象者の概要

認知症高齢者グループホームを利用している認知症高齢者17名を対象とした。女性15名、男性2名で、平均年齢は85.29歳であった。認知症の程度は柄澤式「老人知能の臨床的判断基準」(柄澤昭秀, 1999)において、軽度8名、中等度7名、高度2名であった。日常生活の自立度に関しては、介護保険制度の要介護認定で用いられる認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を用いて判定したところ、ランクⅠ1名、ランクⅡa2名、

表1 紙芝居演目

第1回	1月28日	「もも太郎」
第2回	2月4日	「さるかに合戦」
第3回	2月10日	「花さかじじい」
第4回	2月18日	「うらしまたろう」 「ぶんぶくちやがま」
第5回	2月26日	「みにくいあひるのこ」 「ばけくらべ」
第6回	3月4日	「あかいくつ」 「いもころがし」
第7回	3月11日	「豆っ子太郎」 「かわうそときつね」
第8回	3月25日	「ききみみずきん」 「とんだちょうじゃどん」
第9回	3月31日	「はちかずき」 「天人のよめさま」

ランクⅡb2名、ランクⅢa5名、ランクⅢb7名であった。

2. 紙芝居の演目

紙芝居は9回実施した。読んだ紙芝居の内容は全部で15作だった。内容は高齢者に馴染みの深い昔話である。平成23年2月10日までの介入では、1回に1作を読んだが、平成23年2月18日からの介入では、対象者の希望により、1回に2作を読んだ。紙芝居の演目の詳細は表1に示す通りだった。

3. 分析結果

紙芝居の感想の逐語録から1文節に区切ったデータを分かち書きした。分かち書きの後抽出された構成要素は134、句読点、助詞を除き、さらに同一語の置換を行った後の構成要素数は17であった。もっとも出現頻度の高かったものは「面白かった」であり、41回出現していた。表2に構成要素を示した。

2回以上出現した構成要素を対象に対応分析を行った。対応分析で得られた成分スコアをもとにクラスター分析を行った結果は表3に示したように、4つのクラスターに分類された。

表4に各クラスターの命名を示した。クラスター1は、いい、もっと、よくなど【紙芝居に対するポジティブな側面】と名付けた。紙芝居に対する期待や快の刺激としてとらえることができる。

クラスター2は、聞こえないということで、【紙芝居に対するネガティブな側面】と名付けた。聞こえない

表2 構成要素数

構成要素	構成要素数
面白かった	41
よかった	25
楽しい	18
聞いた	13
いい	8
分からない	8
もらいました	6
最初	5
子ども	5
聞こえない	5
初めて	4
もっと	3
よく	3
嬉しかった	3
言えない	3
思い出す	3
長い	3

表3 構成要素クラスター分析の結果

構成要素	構成要素	構成要素	構成要素
クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4
クラスター	クラスター	クラスター	クラスター
サイズ:5	サイズ:1	サイズ:10	サイズ:1
いい	聞こえない	もらいました	言えない
もっと		よかった	
よく		楽しい	
長い		嬉しかった	
分からない		最初	
		子ども	
		思い出す	
		初めて	
		聞いた	
		面白かった	

表4 各クラスターと命名

クラスター	クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4
命名	紙芝居に対する ポジティブな側面	紙芝居に対する ネガティブな側面	長期記憶を 呼び起こす側面	短期記憶の 低下した側面

ということ、個人の聴覚の低下も関連している。クラスター1と2は相反する側面とみることができる。

クラスター3は、もらいました、よかった、楽しい、子ども、思い出すなど【長期記憶を呼び起こす側面】と名付けた。構成要素の数も多く、その内容も紙芝居に対する肯定的な感情が様々含まれている。

クラスター4は、言えないということで【短期記憶が低下している側面】と名付けた。ついさっき見た紙芝居の内容を思い出せないという短期記憶の低下を示している。

VI. 考 察

テキストマイニングにより明らかになった紙芝居の感想は、【紙芝居に対するポジティブな側面】【紙芝居に対するネガティブな側面】【長期記憶を呼び起こす側面】【短期記憶の低下した側面】の4つであった。

ポジティブな側面に働きかけることは、快の刺激を呼び起こすこと（平櫻ほか、2008）であり、認知症高齢者にとって快の刺激は、こちよいという感情が気分を落ち着かせ、穏やかな日々を過ごしていくことができる。また、楽しい雰囲気の中であればたとえ紙芝居の内容をあまり理解できていなかったとしてもその場の雰囲気を楽しいと感じ、プラスの感情が生じると考える。

長期記憶や短期記憶に刺激を与えることは、認知機能の低下予防になると考える。認知症高齢者の生きてきた時代を思い出させる場面をリハビリに取り入れると、どの高齢者も穏やかになりよくしゃべるようになる（杉山、2005）ということからも、対象者が懐かしいと感じるような紙芝居を読むことで、今回の介入では紙芝居に興味をあまり示してくれなかった人も興味を示してくれるようになるのではないかと考えられる。また、個々の思い出は異なるので、個人の好みに合わせた紙芝居を取り入れることも効果が見込まれる。

る。読み手も、ただ読むのではなく、世代を超えて一緒に昔を懐かしむといった、感情を共有することが重要である。今回は1週間に1回、3ヶ月の介入であったが、3ヶ月以降も継続することにより、この介入の効果がもっと得られる可能性があると思われた。

V. 結 論

1. テキストマイニング手法により明らかになった紙芝居の感想は、【紙芝居に対するポジティブな側面】【紙芝居に対するネガティブな側面】【長期記憶を呼び起こす側面】【短期記憶の低下した側面】の4つだった。
2. 紙芝居の効果として、長期記憶を呼び起こすことができる可能性が示唆された。

VI. 今後の課題

今後の課題として、対象者の好みの内容を取り入れること、3ヶ月以上の介入を試み、効果を検討する必要がある。さらに、対象を増やし妥当性を検討していく必要がある。

引用文献

- 1) 安藤満代, 小池 潤 (2005), テレビ回想法がグループホームの軽度認知症高齢者の心理に及ぼす効果, 聖マリア学院紀要, 20, 13-18.
- 2) 藤井美和, 小杉考司, 李 政元 (2005), 福祉・心理・看護のテキストマイニング入門, 東京都.
- 3) 柄澤昭秀 (1999), 新老人のほけの臨床, 東京都.
- 4) 平櫻晶子, 畠山禮子, 福岡裕美子ほか (2008), 認知症感動療法, 第50回老年医学会学術集会抄録集, p108.
- 5) 増谷順子 (2010), グループホーム入居の認知症高齢者への園芸活動の試み, 日本認知症ケア学会誌, 9(3), 552-563.
- 6) 奥野茂代, 大西和子 (2008), 老年看護学概論と看護の実践 (第4版), ニューヴェルヒロカワ, 東京都, p258.
- 7) Reiko Hatakeyama, Keita Fukushima, Yumiko Fukuoka et al (2010), Personal home-made digital video disk for patients with behavioral psychological symptoms of dementia, Geriatr Gerontol Int, 10, 272-274.
- 8) 杉山孝博 (2005), 高齢者のリハビリテーション, 金原出版株式会社, 東京都, 158-166.
- 9) 兎澤恵子, 大平奈津美, 河上三枝子, 伊藤まゆみ (2010), グループホームにおけるグループ回想法が認知症高齢者の唾液コルチゾールおよび唾液 IgA に及ぼす影響, 群馬パース大学紀要, 10, 17-25.
- 10) 梅野美代子, 根本清美, 白澤礼子, 笹野恵子 (2005), 夕暮れ症候群に有効だった紙芝居, 精神看護, 8 (2), 23-26.

A STUDY INTO ACTIVITIES FOR ELDERLY PEOPLE WITH DEMENTIA, LIVING IN NURSING HOMES. ~ AN EVALUATION OF FEEDBACK FROM PICTURE-STORY SHOWS USING TEXT MINING ANALYSIS ~

Yumiko FUKUOKA¹⁾, Reiko HATAKEYAMA¹⁾

Abstract: In this research, we conducted a series of picture-story shows for elderly people with dementia, living in a nursing home. We also analyzed feedback provided by these people. This was intended to examine the effect of picture-story shows. Our research method was to have a weekly picture-story show session for 17 participants. At the end of every session, we had the participants exchange feedback. We analyzed their feedback using text mining analysis. From their feedback, we have found four aspects of picture-story shows, namely “positive feedback for picture-story shows”, “negative feedback for picture-story shows”, “effects on recalling long-term memories” and “decreased short-term memories”. A significant implication from this research is that picture-story shows may help elderly people with dementia recall long-term memories.

Key words : dementia elderly people, picture-story shows, text mining analysis

1) Faculty of Nursing, Hirosaki Gakuin University

TEL : 0172-31-7175, FAX : 0172-31-7101, E-mail : fukuoka@hirogaku-u.ac.jp